

平成三十年三月

栄町見聞録

第172号



執筆発行 栄町議会議員
野田 泰博
栄町安食台1丁目8番7号
メール yasnodab316@gmail.com
Tel 0476-95-3665



栄町の今を知る・3月定例議会報告

3月6日から16日まで町長発議27議案と議会発議1全議案可決
一般質問6名も無事終了 陳情3件がありました。

一般質問の時、ベテラン議員であり監査でもある方が政府の補助金事業に関して疑義を呈し、百条委員会の設立を試みたが誰の賛同も得られず幕引きとなった。その一部始終。町長選のはなし。

3期目の無投票はダメだと言う方を応援する人・元議会事務局長と栄町議会議員松島一夫議員

栄町安食の中谷みのる氏という方が次期町長選に出馬するというチラシを新聞折込で配布した。3期目の無投票を許さない」と主張している。この方を応援する方が、二人いることを知った。この方を応援しようという方を私が知ったのは議会終了後であった。一人は成田市在住のB氏(一般人)でその昔栄町の議会事務局長をしていた方、本塾村最後の村長選(印西市と合併する前の75日間だけの村長選)で落選した方。私は電話でB氏に確認した。もう一人の応援者は栄町議会議員の布鎌の松島一夫議員。松島議員は12月議会の時、3期も無投票はまずいので、自分が出ると私に言っていたが、この度中谷氏を応援するということが分かった。B氏は故藤江町長が大変面倒を見ていた方で、栄町では議会事務局長を長年勤めていた。そのB氏と松島議員は、私が議員2期目の時に、私を排除す

員も認めて監査になった。

また千葉県には37市のうち7市が無投票。17町のうち10町が無投票である。無投票の代表格は白子町7期、次に神崎町3期、酒々井2期、栄2期、多古2期、その他5町が1期の無投票町長が誕生しているが、栄町の3期目の無投票はダメだとして、栄町に転居してまで町長選に挑戦されるのはさぞ勇気がいるだろう。その方を応援するB氏と松島議員は大変な役目を担っている。

今回の3月定例議会最終日に怪文書に呼応した動きが出た

議会最中に誰が責任者か分からない、中谷みのるさんという方のプロフィールもない怪文書が新聞折込で配布された。(二度目は怪文書でなく、プロフィール、住所などは書かれてあった。責任者の名はない。)朝日新聞が配布を断ったのは責任者や連絡先がないというものであった。

順調に進んできた定例議会が松島議員の一般質問(3月15日)で様相がガラリと変わった。松島議員は2期に亘って監査をしてきた。3月定例の一般質問で、監査だから知り得たかもしれない情報を話し始めた。

栄町に国(農水省)から派遣された理事(4月に他市へ国の出向命令で移動する)への追及で、舌鋒鋭く町長、副町長の管理不足と断定し、町へ損害を与えるので副町長を辞職させろと迫った。

町は現在国と折衝中だが、もし仮に損失が出た場合、そして町長と副町長の責任ならば、賞与の減額で対応すると言つても、「町長は副町長をやめさせる」と議会で強く迫った。町長は当然の「さっく」辞めさせません」と即答。

1ヶ月後に町長選挙なのに何故そのような行為に出たのか

更に追い討ちをかけ、議会は百条委員会を上程して追求すると迫った。しかし議員の誰からも賛同されず、また次の手として「議会に真相を明らかにする義務」議案をお考えのようだったが、全く相手にされず議会終了。しかし当の松島議員は何故か全議案に賛成した。松島議員が本当に追求するなら、決算や来年度予算に反対する場面であったのに・・・。

(感想)

松島議員は監査ゆえ、知った内容が重要と思つたのだろう。担当責任者を辞めさせろという代わりに副町長を辞めさせろと迫った。本来、監査は町長や副町長に調査をしろと命じれば良い。6ヶ月も溜め込んで、町長選の直前に議場で暴露するのは如何なものかと思う。自分の懐で熟成して議場で暴露したのだから他の議員も呆れてしまった。突如百条委員会を設置しろといきなりの提案だったのだ。誰も賛同せず動議にもならなかった。昨年から町は何度も全員協議会で補助金事業の状況を説明してきた。建設遅延は正月の二度の降雪も遅延要因の一つだ。松島議員は同僚議員を自分の職場に呼んで、中谷氏を紹介していると、呼ばれた議員から聞いた。松島議員は真剣に中谷氏を町長に迎えようとしているのである。

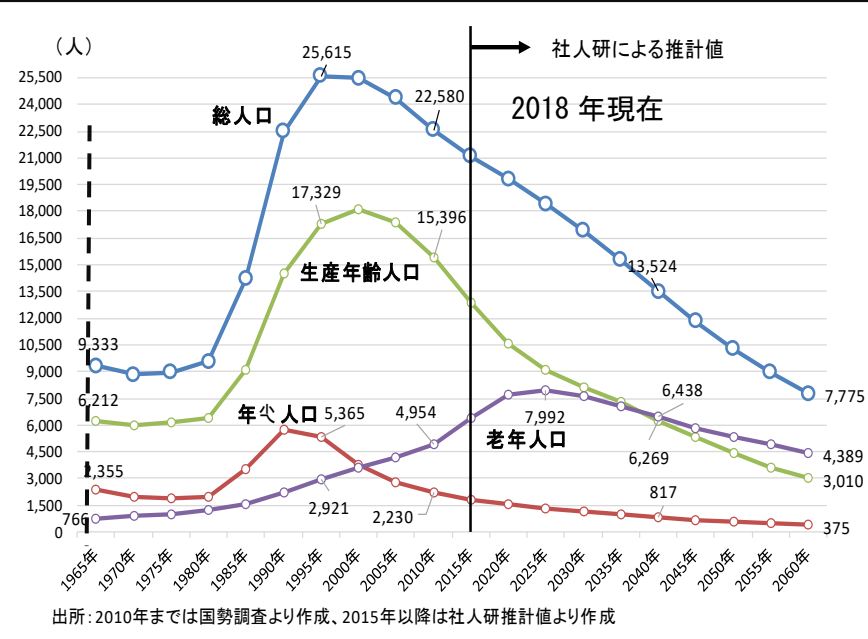
2025年度問題

日本は2025年に急激な社会変化が始まる。超高齢化社会、納税者人口激減社会に直面する。国は条例、法令を変え対処しつつある。特に納税者減は栄町のように小さな自治体を直撃する。だからこそ平成の大合併を急がせた。

2025年には日本全体で現在より人口が70万人減、生産年齢(15歳から65歳人口)が7千万になり、国民からの納税金が急減する。反対に65歳以上の人口は3600万人を突破。団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3分の1が65歳以上、5人に一人が75歳以上になる超高齢化社会となる。その時代を見据えて今手を打つ必要が国、県、市町村に要求されている。

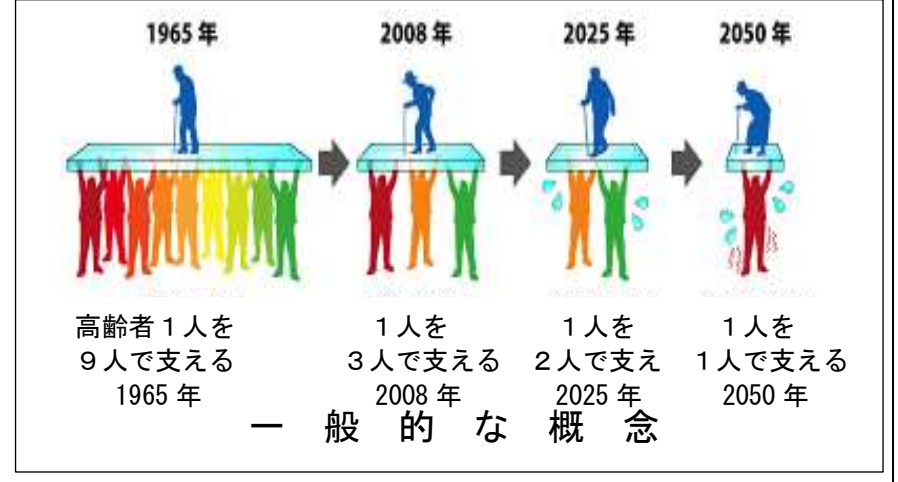
議会が一つに割れたり、町の執行部と議会が対立したりすれば、町民が置き去りにされる。以前大野町長と川崎町長時代にその分裂を体験した。栄町のような小さな自治体はまとめるのに大変な力量を要する。栄町は岡田町長の元、この8年ようやく静かになってきた。この大切な時期に「自分ファースト」を捨てて来たる大波に打ち勝たねばならない。私は町民の見る目を信じている。

これからの栄町の町づくり
 20年前までの藤江町政時代の借金で苦しむのは50年。借金を消すのは後20年。「5万人の町作り構想」が間違いの発端。
 団地開発前の栄町は典型的な農村だった。1965-1980頃の人口は9千人程度だった。私たちが安食台に入居した1983年から急激に伸び、1995年の25615人をピークに下がり始め、2018年は21900人となった。これからさらに減る可能性はあるが、各種政策を講じ自然減(高齢の死亡)以外の減少を食い止めつつある。「田舎暮らし」という月刊紙に栄町は田舎での暮らしやすさ全国7位との記事も掲載された。これからの栄町は老年人口が生産年齢よりも増加する(左表参照)、若年層、生産年齢層をいかに増やすかという課題に向かい挑戦しなければならない。



借金減をしなければならない政策
 これからの備えを強固にする政策
 藤江政権の5万人の町づくりで作った借金を今2万人で返却している。だから藤江町長以降の三人の町長は四苦八苦して来た。少しゆとりができたのは、岡田町長が今の本橋さんに副町長をお願いしてからだ。本橋さんが県や国から補助金をかき集めて来るのが上手だからだ。そこで困ったのは役場職員。栄町の根幹となる政策に沿った補助金を貰う理由づけが必要で、素早く書類にする必要があったからだ。
 国も役場も役所は書類が進む。だから辻褄を合わせた計画変更ができる職員が必要とされた。藤江町長時代は藤江さんの個性で国や県を動かしてきたが、今度はいかに正確に栄町の方針に沿った計画変更ができるか否かなのだ。速さと正確さが栄町役場職員に求められたのだ。

栄町人口未来図(上図)
 栄町の人口図を見る
 と2025年に老年人口数がピークになり、以降徐々に下がるが老年の総人口に対する割合は増加する。これは栄町だけの現象ではない。全国同じ。生産年齢人口割合がさらに低下し、低い生産年齢人口の福祉を支えなければならない。1965年は一人の老人を支える2人、2025年は2人、2050年は1人、2060年は1人。若者を老人が支え、増やして、未来を作るお役に輪廻転生だ。



公約と借金のできる原因
 バブル絶頂期(昭和40年代後半)から団塊世代の住宅購入意欲を掻き立て大都市周辺に大規模開発が行われた。栄町も同じように開発され結局1万5千人ほど団塊世代を中心として増えた。町は構想のために、上下水道、ゴミ処理、道路、交通などの整備を準備し、インフラ整備のための借金をした。栄町が誇れる一つとして、成田市よりもインフラ整備率が高い時もあった。全ては5万人構想に基づく計画であった。
 水道料金を他市と比べたら高いと言われている、今は他の市町が高くなり、栄町は高くもなく安くもなく、栄町は高くて、大都市と比べるとやはり高いが、5万人に比べて高くなる。だから事前には広域水道企業団で水量確保をした。その中には今はまだ使えな

3月定例議会私の一般質問
 町民に協力してもらおうゴミ減量実験はいつまで行うのか。3年間のゴミ減量実験結果の結論は、いかなるものか。減量で得る利益を町民にどのように還元するのか。
 答弁者 環境課長
 来年度の実験予定を答弁者は述べ始めた。私は一体何年実験をするのかと再質問。3年も町民に実験させたなら、結論をまずは出し、メリットを住民に還元すべき。栄町のゴミ減量目標は1日一人430グラム。だが生ゴミを徹底的に排除し、燃やすすゴミだけで見ると1日一人200グラム以下に落とせる。私は3年間毎日ゴミ量を計測して結論を出した。

いハッ場ダム建設の費用も含まれる。町づくりは計画通りできてあたり前。出来なければ批判される。社会現象にも左右されるので非常に難しい。首長など図太い勇気がなければできない仕事だ。
 選挙では町の財政上の裏付けも取らずに、当選するための公約をする人が多い。例えば給食費はタダにする(これは昨今この市長選でも良く聞く)、エアコンを全校に設置する。(栄町ではすでにどの学校も入っている)、町長になったら町長の報酬は減額する、もよく使う選挙用公約。どこの市町でも選挙になれば嘘八百の公約が飛びかう。
 因みに私の公約は最初から今まで28年間同じ。栄町の議会の内容を栄町見聞録を全戸配布でお知らせしますというものだ。そして172号になった。

あとがき
 3月定例議会が終了した後には再び町長選挑戦者のチラシが入っていた。栄町を変えるというわりには新しい施策はない。むしろ奇異に感じるのは給食費を無償化はいいが、無償化に反対している松島議員が応援している事だ。エアコン設置などですら栄町は全校終了している。この方は栄町のことを調べていないよ。また外国人観光客を呼び込む事業もすでに開始しているし、その一つが「コスプレ館」でもある。でもこの方は必要ないと思っていらい。一つ良いことも書いていた。図書館を作り、民間と共同運営させる構想だ。でもどこに図書館を作るのだろうか。ふれプラ前の空き地はすでにメモリとヤックスに使わせるようにしてしまった。また図書館を作るとなると大変にお金のかかる事になる。借金はごめんこうむる。
 私の願いは栄町の財政事情をもっと研究して欲しいということ。町長になってから研究しても遅い。もしも候補者にご家族がいるなら家族構成も紹介して欲しい。一緒に栄町に引っ越して来て、栄町の良いところを是非知ってもらいたい。その上でこのように栄町を改革したいと意見を言うて欲しい。選挙の前に引っ越して改革するなど言ってもらいたくない。給食無償化、高齢者移動手段、奨学金制度、道の駅建設、太陽光発電所、水路発電設備など魅力ある施策満載。でもそれにかかる「お金」はどうやって工面するのか。つとというのを知りたい。久しぶりの町長選挙に皆色めき立っている。

栄町見聞録第172号
 執筆発行責任者 栄町議会議員 野田泰博
 住所、電話は表のタイトルに記載